

- 主体的・対話的な視点からの授業改善
- SWPBS の導入による学習指導の充実

学力向上推進員

校長

片山 富造

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業観察や教員との対話や報告等、あらゆる機会を捉え、取組状況と児童の変容等の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○与えられた課題にまじめに取り組み、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いてきている。</p> <p>●語彙が少なく、必要なことを読み取る・聞き取る力、自分の考えを話す・書く力が十分ではない。</p>	<p>・学習の過程を通して習得した基礎的・基本的な知識・技能を他の学習の場面で活用することができる。</p> <p>・話や文章の要旨や問いの意図を捉えることができる。</p>	<p>・ミニテスト、タブレットのドリル学習やタイピング練習を活用する。</p> <p>・文章の大事な部分、問われていること、心に残ったところなどの観点で自分で印をつける習慣化を図る。</p> <p>・SWPBS と関連付けて、うなずいて聞く、メモを取りながら聞くなど、学年に応じた聞く力や話す力を高める。</p>	<p>・ SWPBS と関連付けて、うなずいて聞く、メモを取りながら聞くなど、学年や実態に応じた聞く力や話す力を高めるようにする。</p>	<p>・ドリル学習やタイピング練習では、タブレットを効果的に活用できた。</p> <p>・自分で印をつける意識はついてきているが、習慣化を図ることは難しい。テストなどでは、自分で印をつけることが少しずつできている。</p> <p>・学年に応じてうなずいて聞く、メモを取りながら聞く力もついてきた。</p>	<p>・ドリル学習やタイピング練習の時間の確保と技能向上の手立てを考え、個々の能力を高める。</p> <p>・大事な部分、問われていることなどの観点で自分で印をつける習慣を身につける。</p> <p>・次年度は自分の考えをまとめて話す力を高めるための取組を図る。</p>

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○話を聞いたり、自分の考えを伝えたりすることが身に付きつつある。</p> <p>○情報を集めたり、まとめたりすることにタブレットを意欲的に活用しようとする。</p> <p>●課題解決について必要な情報を選び、自分の考えを根拠を明らかにして話す・書くことに課題がある。</p>	<p>・文章に対する感想や意見を、条件に合わせてまとめることができる。</p> <p>・自分の考えを理由や根拠をもとにしたり、必要な情報を活用したりして、相手に伝えることができる。</p> <p>・自分の考えとの共通点や相違点について考えながら友達の見聞を聞き、学びを深めることができる。</p>	<p>・文章を要約することや自分の思いや考えを条件に合わせて表現する機会を設ける。</p> <p>・ペア学習やグループ学習の機会を設けたり、タブレットやホワイトボード等を効果的に活用したりして、発表や話し合いができるようにする。</p> <p>・話し合いが深まるように「話し合いの手引き」を継続して活用し、手順等を身につけるようにする。</p> <p>・ICTスキル習得体系表をもとに、学年に応じたスキルを身につけさせ、自分にあった方法を選び発表できるようにする。</p>	<p>・ICTスキル習得体系表をもとに、学年に応じたスキルや情報モラルを身につけさせるようにする。</p>	<p>・振り返りの時間に自分の思いや考えを表現することができた。</p> <p>・ホワイトボードやタブレットを活用し、班や全体で意見等を共有することができた。</p> <p>・「話し合いの手引き」を活用して手順を身につけることができたが、深まりはあまり見られなかった。</p> <p>・ICT 支援員による授業を実施し、情報モラルの大切さや危機意識が高まった。</p>	<p>・「話し合いの手引き」を活用する機会を増やし、話し合いが深まるような手立てを考える。</p> <p>・「ICTスキル習得体系表」をもとに、学年に応じたスキルを身につけさせ、必要な情報を自分で選択していく力を育てる。タブレット使用のルールは、随時確認する。</p>

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○学習の仕方など見通しがつくと、自分の考えをもって進んで取り組む。</p> <p>○時間や機会を設けることで読書に親しむ児童が増えてきた。</p> <p>●自らが課題を設定し、粘り強く取り組むことが十分ではない。</p> <p>●発達段階に応じた内容の読書も楽しめるようにしたい。</p>	<p>・自分のめあてをもち、学ぶ楽しさを感じながら課題解決に粘り強く取り組むことができる。</p> <p>・自分の学習状況を振り返ったり、互いの学びを認め合ったりし、次の学習への意欲をもつことができる。</p> <p>・自分が読みたい本を進んで読み、感想をもつことができる。</p>	<p>・授業では、めあてを提示し、振り返りの時間を確保する。</p> <p>・振り返りでは、視点を示し記述できるようにする。</p> <p>・家庭学習充実期間を設け、家庭と連携して、子供の学習や読書への意欲を高める。</p> <p>・タブレットを活用し、自分の課題に合った学習に取り組めるようにする。</p>	<p>・振り返りでは、視点や書き出しの言葉を示し記述できるようにする。</p>	<p>・振り返りの視点や書き出しの言葉を提示すると、自分の言葉で記述することができた。良いお手本を全体で共有し、次の学習へつなげることができた。</p> <p>・「学びのサポート」で、家庭への啓発ができ、学習への意欲を高めることができた。</p> <p>・タブレットの活用は進んだが、時間の確保が課題である。</p> <p>・週末読書等の習慣が定着し、自分のテーマで本を選択し、感想をもつことができた。</p>	<p>・振り返りの時間を確保できるように、継続的に授業計画を立てる。</p> <p>・「学びのサポート」を通して、基本的な学習準備や態度を意識したり、自ら課題を設定し、課題解決に向けて取り組んだりするよう計画的継続的に働きかけていく。</p> <p>・タブレットのドリル学習ができた児童への賞賛やフィードバックを図る。</p> <p>・読書活動を推進していく。</p>

令和5年度 学力向上ロードマップ

